

週報第24号令和8年2月19日発行



「アポロシアター」

横浜鶴見北ロータリークラブ

【事務局】 横浜市鶴見区佃野町 18-11 エトワール鶴見 303号

TEL 045-575-1821 FAX 045-575-1822

Email ytnclub@gmail.com

HP <https://www.rotary-tsuruminorth.jp/>

【例会】 毎週木曜日 12:30 場所 新横浜グレイスホテル

会長／祝康一 副会長／渡辺直昭 幹事／小笠原憲介

第2472回例会 令和8年2月5日

斉唱 「君が代」
「横浜鶴見北ロータリークラブの歌」
ゲスト 川崎中央ロータリークラブ
地区職業奉仕委員 伊藤 弘志様
奨学生 チン ジャンラムさん

会長報告

先週クラブミーティングの発表お疲れ様でした。発表の中でよく使われた言葉は会費が高い月に3万円以上かかる。3年未満の会員の定着率が低い（約60%が退会するとの発言あり）例会の在り方の見直し。昼間の例会への参加が難しいという声にこたえて、夜間例会の開催が提案された。例会の回数を月3回から2回に減らし、内1回を実費負担の実費負担の夜間例会とする案が検討されている。「メイキャップ」（他クラブ例会への参加）という言葉が使われなくなり、制度が形骸化している。

ロータリークラブの歴史と変化
会員増強の可能性。入会基準の変化。昔は1業種一人、現在では原則も緩和され会員を誘いやすくなった。

会員増強、維持に関する意見
個人的なつながりでの勧誘が最も効果的、1年間やってみて合わなければ辞めてもよいというスタンスで気軽に誘う方法も提案された。新会員へのフォローアップが定着へのカギである。

クラブ内の雰囲気
当クラブの最大の魅力は、年齢に関係なく会員同士が和気あいあいとしている点であるとされた。他クラブのような世代間対立や派閥争いが無いところが良い伝統であるとの意見も聞かれました。

藤林会員よりご紹介いただいた本間桂子様による「エジプトの風に吹かれて」会員の皆様に好評であったために、新潟より2回も来ていただきました。私は個人的な興味としてラムセス2世の話に興味がありました、例えばハリウッドの映画「十戒」などでは、ユダヤ人が正義。アラブ人であるラムセス二世が悪。と描かれています。

「ベンハー」もそうです。調べたところ当時メジャーの映画会社はすべてユダヤ資本でした。今回の卓話で確認できたことは、ラムセス2世がエジプトではヒーロー的な存在であるとのことでした。歴史を正確にきちんと学ぶことが大事なことと思いました。このようなことを改めて考えさせられました本間様に感謝いたします。

誕生祝

祝 康一 会員（2月10日）
田邊 勝久 会員（2月16日）



創立記念日

加藤 進 会員（2月15日）

入会記念日

小笠原憲介 会員（令和2年2月6日）
天野 直樹 会員（平成19年2月8日）

表彰

R財団ベネファクター
祝 康一 会員



幹事報告

- フレッシュ交流会のご案内
日時：3/6(金)18：00～20：30
場所：新横浜グレイスホテル登録料：9,000円
- 台北国際大会 RI 理事主催親善朝食会のご案内
日時：6/14(日)7：00～8：00
場所：圓山大飯店 12階登録料：12,000円

米山奨学金贈呈

米山奨学生 チンジャンラムさん



委員会報告

【中西美里会員】

- ロータリーの友2月号について

出席報告

会員総数 32名
今回暫定 22 / 32 = 73.33%
前々回確定 27 / 32 = 90%

ニコニコBOX

伊藤弘志様 本日、奉仕はサービスの略語としてふさわしくないことを説明させていただきます。鶴見北は10年ほど前に鈴木様のご紹介で卓話に参りました。依頼です。本日よろしくお祈いします。

クラブ会員の為、敬称略

祝 康一 職業奉仕についてしっかり勉強したいです。

小笠原憲介 地区職業奉仕委員、伊藤弘志様、本日は卓話ありがとうございます。拝聴させていただきます。アグネスようこそ。楽しんでいってください。ペナン島を楽しみにしています。

田邊 勝久 誕生日をお祝いいただきありがとうございます。

鈴木元一郎 伊藤様、本日はお忙しい中、卓話ありがとうございます。本日記念日をお迎いの皆様おめでとうございます。

上原 良廣 伊藤様、本日よろしくお祈いいたします。春ですが週末雪降らないと良いのですが。

今井新一郎 地区職業奉仕委員、伊藤弘志様卓話拝聴いたします。記念日の方々おめでとうございます。私事ながら尿管結石で苦しみました。

晝間 勝 お祝いの皆様おめでとうございます。伊藤様、職業奉仕に関する卓話ありがとうございます。

蜂須賀達寿 伊藤さんありがとうございます。卓話楽しみにしております。

中西 美里 アグネス、もうすぐ卒業かな。お仕事までの期間楽しんでください。お祝いの皆様おめでとうございます。伊藤様卓話拝聴いたします。

長澤 尚明 地区職業奉仕、伊藤弘志様。本日は卓話ありがとうございます。職業奉仕について勉強させていただきます。よろしくお願いいたします。

増田 泰成 記念日の方々おめでとうございます。伊藤様卓話よろしくお願いいたします。

青木 頼江 各種お祝いの方々おめでとうございます。伊藤様、本日卓話楽しみにしております。

天野 直樹 地区職業奉仕委員、伊藤様。本日は卓話ありがとうございます。よろしくお願いいたします。遅刻していて恐縮ですが、本日 Web 裁判のため途中退席で申し訳ありません。

堀野 弘樹 川崎中央RC伊藤様。本日はようこそいらっしゃいました。卓話ありがとうございます。拝聴いたします。アグネスようこそいらっしゃいました。もうすぐマレーシア訪問ですね。楽しみにしています。

宮田 豊和 地区職業奉仕員、伊藤様。卓話ありがとうございます。理解が難しいとされる職業奉仕についてご教示お願いします。拝聴いたします。

松田 啓 次年度も引き続き青少年交換委員長ですが、委員集めが大変でなかなか集まりません。皆さん大変な思いでやってこられたのだなあと感じます。

以下同内容の為お名前のみ（敬称略）

佐久間務 合谷保爾 加藤進 牧井秀賢
野村清司

卓 話

「職業奉仕について 地区職業奉仕委員会」



地区職業奉仕委員
伊藤 弘志 様

～プロフィール～

所属会社：I T Oソリューションズ株式会社
（アイティーオーソリューションズ）

2012年創業（代表取締役）

職業分類：不動産鑑定士

最終学歴：横浜国立大学工学部大学院修士課程修了（1984年）

ロータリー歴；

2012年 川崎中央RC入会

2017-18年 同 幹事

2021-22年 同 会長

2024年より 2590地区職業奉仕委員

「奉仕」と「Service」の混乱

- 1908年、ロータリーは「Serviceの理論という経営学を集団で学び、この理論を個人で実践すること」にしました。そして1922年「商売成功術である経営学」を「真の幸福を掴むためのPhilosophy(哲学・信念・生き方)」に昇華させたのです。
- 1922年「ロータリーの生き方を置き、また、この生き方を世に広める」という運動を始めました。ロータリーの生き方は「ロータリアンの各々が、個人生活・職業生活・社会生活において、ロータリーの原理をApply(応用)すること」です。
- この原理をThe Ideal of Service(サービスの理想的な原理)と名付けました。そして、1918年に、この原理をEnterprise(企業)のBasis(基本原理)として推奨したのです。
- つまり、The Ideal of Serviceは「企業原理」であり「利益を生む原理」なのです。しかし、これが「奉仕の理想(1934)」や「奉仕の理念(2012)」と書き換えられたために、論理矛盾が生じたのです。
- 梅吉翁はServiceを「サービス」と訳しました。しかし、神戸RCの外国語禁止提案(1934)によって、これが一律「奉仕」に書き換えられて、論理が混乱している。

日本ロータリーの「奉仕」と国際ロータリーの「Service」の意味の違い

日本語の「奉仕」の誤解	本来の英語の“Service”
滅私 (Self-sacrifice/Altruism)	利他 (Enlightened self-interest)
奉公・仕える (To serve a master)	貢献・機能する (To function / To contribute)
自己犠牲 (Loss)	自己実現・幸福追求 (Gain / Fulfillment)

ライオンズクラブとロータリークラブの違い (地区職業奉仕委員会の意見として)

ライオンズクラブ	ロータリークラブ
We Serve(私達の活動)	I Serve(私の活動)
奉仕活動を行うことが目的	奉仕活動を通してServiceの理念を学ぶことが目的
奉仕対象は社会全般	原則として実践の対象は “All Concerned” = Stakeholders, community, family

四つのテスト<The Four Way Test>

《岐路に立った際の道標、あらゆる方面・場面で使える物差し》

- Is it **the Truth**? (真実かどうか)
「それは本当のことですか」「それは**ありのまま**ですか」
- Is it **Fair to all concerned**? (関係者に公平か)
「それは**関係者全員**に公平公正ですか」
- Will it build **Goodwill and Better friendships**? (信頼や交際を築けるか)
「それは信用と良き信頼関係を築きますか」
- Will it be **Beneficial to all concerned**? (みんなのためになるかどうか)
「それは**関係者全員**の利益になりますか」

決議23-34より抜粋

「序文」

ロータリーにおいて「社会サービス」という名の運動とは、ロータリアン各自の個人生活、職業生活、社会生活において「理想的なサービスの原理(The ideal of service)」を応用展開すること。

「第6項g」

- クラブがひと固まりとなって行動するだけで足りるような事業よりも、広くすべてのロータリアンの**個々の力を動員**するもののほうがロータリーの精神によりかかっていると考える。それは、ロータリークラブでの**社会奉仕活動は、ロータリークラブの会員に奉仕の訓練を施すために考えられた、いわば研究室の実験としてのみこれを見るべきであるからである**

活動と運動

活動(Activities)

- Community Service Activities (社会奉仕活動=地区奉仕活動など)
- 何かを行うこと。=To Do
(例) ボイ捨てされているゴミをみんなで拾う。(活動は目に見える)

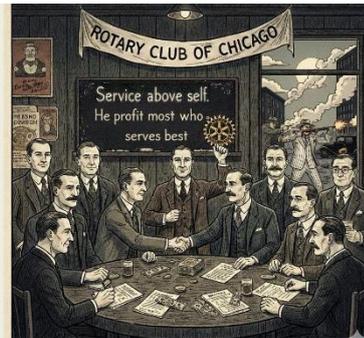
運動(Movement)

- Community Service (序文の社会サービス)
- 考えや在り方を変えること(それを推奨する・広めること)=To Be
(例) ボイ捨てしない人になろう=ボイ捨てしない人になる。
内面(考えや在り方)の変化は目に見えない

考えや在り方が変わる(To Be)と、良いことをする(To Do)だけでなく、悪いこともしなくなる(Not To Do)。

「第一標語(Service above self)」の起源

- 1905年、**事業主同士がTrade(商取引)とTalk(情報交換)をするため**、ロータリークラブというFellowship(同志の集まり)が創られました。
- 無法地帯のシカゴにおいて、**騙されずにすむ会員同士の取引**は、会員にとって大きな特典となりました。この取引で裕福になった会員は「この特典を出し惜しみせず、会員外にもService(提供)すれば、取引が拡大するので、かえって儲かる」と考えました。
- そこで、1911年に「Self(利己心・出し惜しみ)ではなく、**Service(提供)が利益を生むのだ**」と言う意味の**Service, Not Self**という標語を発表しました。



「第二標語(He Profit Most ~)」の起源

- 1908年「Serviceの理論という経営学を集団で学び、個人でこの理論を実践する」ことが推奨されました。1910年、この**経営学のエッセンス**が「ロータリーの標語」として発表されました。
- それが「自分の仕事相手に、最もよく貢献する者が最も多くの利益を得る」という意味の**He Profits Most Who Serves His Fellows Best**という標語です。なお、Fellowsとは、事業主から見て「顧客・取引先・従業員」などのことです。1911年、His Fellows(自分の仕事相手)は省略されました。
- なお、**Profit(儲かる)**に「競われる」という意味はありません。

商売を成功させる経営理論

“Service aboveself”

シェルドンの書簡に触発されたB・F・コリンズ
利己心よりもサービスの方が、むしろ多くの利益を生む。
Service(貢献)とProfit(利益)の因果関係を表す法則

→「たらいの水」と同義

“He profits most who serves best”

A・F・シェルドンのサービス理論の核心
最善のサービス(貢献)をする者が、最大の利益を生む

→「三方よし」と同義

A・F・シェルドン



(出典：国際ロータリーHP)



「たらいの水」 二宮尊徳(1787-1856年)の言葉

人間は皆、空っぽのたらいのような状態(財産も能力も何も持たず)に生まれて来る。そして、そのたらいに自然や沢山の人が水を満たしてくれる。

その水の有り難さに気づいた人だけが他人にもあげたくなり、誰かに幸せになって欲しいと感じて水を相手の方に押しやろうとする。そして、幸せというのは、自分はもう要りませんと他人に譲ってもまた戻ってくるし、絶対に自分から離れないものだけれども、

その水を自分のものだと考えたり、水を満たしてもらうことを当たり前と錯覚して足りない、足りない、もっともっと、とかき集めようとする、幸せが逃げていく



「三方よし」 ※中村治兵衛が1754年に作成した家訓より

近江商人の経営哲学のひとつとして「三方よし」が広く知られている。「商売において売り手と買い手が満足するのは当然のこと、社会に貢献できてこそよい商売といえる」という考え方

たとえ他国へ行商に出かけても、自分が持参した商品を、その国の人々が皆気分よく着用してもらえるように心掛け、自分のことばかりを思うのではなく、まずお客のためを思って、一挙に高利を望まず、何事も天道の恵み次第であると謙虚に身を処し、ひたすら行商先の人々のことを大切に思って、商売をしなければならない。

職業奉仕とは

ロータリーの第二奉仕部門。

その目的には、事業及び専門職務の道徳的水準を高め、あらゆる有用な業務は尊重されるべきであるという認識を深め、あらゆる職業にかかわる中で奉仕の理想を活かしていくことが含まれる。

(日本ロータリー編纂「ロータリー情報マニュアル」より)

5大奉仕の一部門と言う捉え方をしているから「職業奉仕」が分からなくなっている。

職業奉仕の本質は 道徳なき経済は犯罪であり、 経済なき道徳は寝言である (二宮尊徳翁)

前段の言葉の「経済」が「Service」とほぼ同義であり、後段の「経済」は、Serviceの結果としてもたらされるProfitである。すなわち職業人・事業家だからこそ出来ることがあるという点で、ロータリークラブの標語を100年前に二宮尊徳が指摘している。ただし、この指摘は優れた経営者なら誰もが思いつく理念であると考えられるが。

ロータリーのObject (目標)

- 1922年「ロータリアンの個人生活・職業生活・社会生活におけるThe Ideal of Serviceの応用(適用)」というObject(目標)が掲げられた。
- すなわち、商売を成功させる経営理論から、The ideal of serviceという原理を抽出し、その原理を、ロータリアンの職業生活だけでなく、個人的な生活や社会的な生活にも応用していくことが考案された。
- 英文ではThe Object of Rotaryだが、日本語訳ではロータリーの目的と訳されている。
- 目的(Purpose)とは動機となるもの、目標(Object)は目的を達成するために設定したものの。

Rotary Code of Conduct (ロータリーの行動規範)

- Exemplify the core value of integrity in all behaviors and activities; すべて行動と活動において、中核的価値観である誠実さを体現します。
- Use my vocational experience and talents to serve in Rotary; 私の職業上の経験や能力をロータリー活動に活かします
- Conduct all of my personal, business, and professional affairs ethically, while encouraging and fostering high ethical standards as an example to others; 個人生活・事業・専門業務において常に倫理的に振舞い、周囲にも倫理観の大切さを広めさせます
- Be fair in all dealings with others and treat them with the respect due to them as fellow human beings; 公正な取引に務め、仲達達の事業と人柄に敬意を払います
- Promote recognition and respect for all occupations which are useful to society; 社会の有用な職業全てに理解を深め敬意を払います。
- Offer my vocational talents; to provide opportunities for young people, to work for the relief of the special needs of others, and to improve the quality of life in my community; 私の職業上の才能を活かし、若者には機会を提供し、他者の特別なニーズに応える活動を行い、地域社会の生活を向上させることに貢献します。
- Uphold the trust that Rotary and fellow Rotarians provide and not do anything that will bring disfavor or reflect adversely on Rotary or fellow Rotarians; ロータリーと仲間のロータリアンから寄せられた信頼を尊重し、ロータリーや仲間のロータリアンの評判を落とすような行為は絶対に行わないこと。
- Not seek from a fellow Rotarian a privilege or advantage not normally accorded others in a business or professional relationship; ビジネスや専門的な関係において、他の人々には通常与えられない特権や優遇措置を、仲間のロータリアンに求めないこと。

国際ロータリーが勧める活動(1)

1. Civic Engagement (市民的積極参加)

「奉仕」という受動的な言葉に代わる、最も現代的な英米語の一つです。個人が市民としての責任を果たすために、社会の問題に対して自らのスキルやリソースを「能動的に投じる」ことを指す。「自己犠牲」ではなく「市民としての権利と義務の行使」というニュアンス。

2. Contribution (貢献)

「私がこれを提供した(Contribute)」という主体的な意志が含まれる。英米のビジネスパーソンやロータリアンが「社会のために何かする」と言う際、Serviceと並んで最も多用されるのが「Making a contribution to society」

国際ロータリーが勧める活動(2)

3. Professional Service (職業を通じた社会貢献)

ロータリーの理念である「職業奉仕」の真意に近い表現。単なる無償労働(ボランティア)ではなく、自分の専門性や職能(Profession)を社会に還元し、社会の機能を高めることを指す。

4. Philanthropy (フィランソロピー)

日本語では「慈善活動」と訳されがちだが、語源は「人間愛」。「誰かに仕える」のではなく、「より良い社会を作るために、自らの富や才能、時間を使う」という、自立した個人による社会参画を指す。アメリカの社会貢献において、最も尊敬される概念の一つ。

まとめ

- 職業奉仕の定義は、決議23-34の序文に書いてある。
- 決議23-34では、職業奉仕とは、ロータリアンそれぞれが、自分の職業生活に、現実的で合理的な企業原理(奉仕の理念=the ideal of service)を応用するという原則を、推し進めることと定義される。
- この企業原理(奉仕の理念=the ideal of service)は、職業生活だけでなく、個人生活においても、社会生活においても応用すること。
- ロータリーのサービスの理論を団体で学び、個人でそれを応用すること。
- すなわち、ロータリークラブは「奉仕活動を目的とする団体」ではなく「サービスの理論を学び、これを実践する人の集まり」である。